

【水辺の活動のリスクマネジメント】

猛暑、そして台風や雷雨など・・・自然の中で活動を行う森のようちえんにとって、厳しい状況が多々ある近年。みなさまの活動がより安全に行われるよう、少し詳しい川遊びのリスクマネジメントについて情報を共有させていただきます。

<川遊びのリスクマネジメント>

身近な水辺の活動として、川遊びをされている団体が多いと思います。

川は非常に水温が低く、子どもたちは体が小さいために大人よりも早く低体温症になりやすく、体が濡れている（水中を含む）と、乾いている時の25倍もの速さで体温を奪っていくというリスクもあります。

また穏やかに見えても、川底の地形の変化や岩などで流れが変化しているところがあり、予測していなかったことが起きうるのが、川のリスクです。

以下チェックポイントに注意しながら、安全に備えて活動を行なってください。

川遊びチェックポイント1【天候】

□天候の変化に注意

遠く離れた上流での豪雨で一気に増水することがあるため、濁り水が流れてきたらすぐに撤収する。また山の近くでは鉄砲水に注意！

川遊びチェックポイント2【装備】

□装備を万全に！

- ・子どもの膝上の深さで活動をする場合は、ライフジャケットを着せること
- ・活動範囲を区切るロープの用意（水に浮くロープがあれば尚良い）
- ・レスキュー用の浮き輪などの用意（念のため用意はするが、子どもが流されてしまったら役に立たないことを知っておいてください）
- ・ファーストエイドキットの用意
- ・毛布やバスタオルなど暖を取れるものを用意し、低体温症への対策

川遊びチェックポイント3【活動場所】※補足資料あり

□安全な活動場所を選ぶ（事前の確認）

- ・子どもの年齢層に適した場所か（水が膝上に来ると流されて歩けない可能性がある）
- ・川幅が広い川を避け、下流域の水深がほぼ無くなる流れになる様な場所を使う
- ・水中の危険物（流木やゴミなど）
- ・人工物・コンクリートブロックなどを避ける
- ・流れが強すぎないか（白く泡立った流れはないか）
- ・流れが大きな岩や壁にぶつかる場所ではないか（岩の下に引き込まれる可能性がある）
- ・深くて穏やかな流れでも油断禁物（事故の90%はこのような場所で起きている）

川遊びチェックポイント 4 【服装】

□活動時の服装例（参照：国土交通省）

※岩場や川の上流域では川遊び用のヘルメットを着用しましょう。



河原や水辺で遊ぶときの服装

- ・帽子をかぶろう
- ・軍手をしよう
- ・動きやすい服装にしよう
- ・濡れてもいい歩きやすい靴をはこう



水に入るときの服装

- ・ライフジャケットを着けよう
- ・濡れてもいい、乾きやすい（ナイロン製など）服装にしよう
- ・ウォーターシューズ、リバーシューズなど濡れても良く脱げない靴をはこう。（ビーチサンダルは脱げて危険！）

□川は水温が低いため、すぐに冷えて重くなる綿のTシャツは避ける

□子どもの膝上の深さで活動の場合は、ライフジャケットを着用させる

川遊びチェックポイント 5 【スタッフの配置】

□事前にスタッフの配置と役割を決めておくこと

- ・活動全体を見ているリーダー（ ）さん ※名前を入れましょう

※活動全体を見ているリーダーは、川には入らず監視に専念すること

- ・川下に2名配置し、流された子どもを救助する役目（ ）さん（ ）さん

- ・川上に1名配置し、上流から危険物が流れてきたら知らせる役目（ ）さん

- ・その他、遊軍スタッフの配置場所の確認

□スタッフはホイッスルを持ち、ハンドサインを決めておく

以上、基本的な項目のみを挙げました。

上記のチェックポイントを確認の上、以下のことも心に留めておいてください。

□ 不安がある場合は中止をする勇気を持ちましょう。

□ 保護者やボランティアだとしても活動中“何かがおかしいな”と思ったら、間違えていても良いので、声を挙げましょう。

楽しい体験を提供する上で、安全管理を行うことは私たち一人一人の大人の責任です。

子どもの安全を守りながら、夏の楽しい活動を行いましょう。

最後に活動場所についての補足資料と安全管理の情報記載の URL をまとめましたので、参考にしてください。

【水辺の活動のリスクマネジメント】

<活動場所 補足資料>

以下の図は「水辺の安全ハンドブック」（河川財団発行）に記載されている指導者の配置図の抜粋です。詳しくはハンドブックを参照してください。（最後のページに URL 記載有り）

この図は比較的小学生以上を想定とした図だと思います。

幼児の川遊びの活動についての注意事項を記載します。



【水辺の活動のリスクマネジメント】

以下に参考となる情報が記載されている URL をまとめました。

水辺の活動は川だけではなく海や湖、小さな池やプールなどでもリスクの高い活動です。子どもたちの命を守るために、知識を得て、事前の準備、もしもの時の対策などをスタッフ間で共有しておくことが大切です。

また、川の安全講習などを行なっている団体もありますので、受講をおすすめします。

以下にまとめた情報をスタッフ間で共有し、勉強会などを行うこともおすすめです。

<今回の参考資料>

- 「水辺の安全ハンドブック」 公益財団法人河川財団発行

http://www.kasen.or.jp/Portals/0/pdf_mizube/mizubehandbook2017.pdf

- 河川水難事故防止！「川で遊ぶ前に」 国土交通省 HP

<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/anzen/index1.html>

- 「平成 29 年教育・保育施設等における事故報告集計」の公表及び事故防止対策について 内閣府 HP

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/h29-jiko_taisaku.pdf

<その他参考資料>

- NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会 略称：RAC

<http://www.rac.gr.jp/02sub/kawaasobi.html>

RAC について・・・

RAC は、上記「水辺の安全ハンドブック」の編集協力をしており、川のプロ集団であり日本で唯一の川の指導者育成機関です。

また RAC では、ライフジャケットのレンタルも行なっているようです。

RAC 以外でもライフジャケットのレンタルを行なっている水辺の活動を行う団体や施設もありますので、みなさまの地域で探してみることもお勧めします。

- 水の事故、山の事故を防いで 海、川、山を安全に楽しむために
政府広報オンライン

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201407/3.html>

- 海辺の安全ハンドブック 笹川平和財団

<https://www.spf.org/pioneerschool/files/handbook.pdf>